

2009年 紘武杖道会 連合稽古会 in 松本 の 報告

神道夢想流 杖 古伝稽古会

去る、6月13日、14日(土、日)両日、松村重紘先生をお招きして、長野県松本市の中央体育館(通称、Mウイング北8階)に於いて、紘武杖道会員が全国から集まり、稽古会が開催された。
稽古会は松村重紘先生を中心に、松本杖道会の太田安昭、諏訪杖道会の篠原良一が指導に当たった。

2009年

6月13日(土)AM

全日本剣道連盟 杖道基本単独動作(1本目～6本目)

体育館の床に有る線を利用して、線の真ん中に立ち、「本手に構え」左右対称に線を踏まずに単独動作。…これが、出来ない。右に、左に、線を踏み、相手を右から攻め、左から攻める。…真っ直ぐ進めない。引き落としの真半身から打ち込んだ時のやや半身、返し突き用意の時…線を踏まずに真っ直ぐ出れない。

6月13日(土)PM

古伝、表…「太刀落」、「鐔割」、「着杖」の3本

左に、右に、背中で…回りこむ杖の体捌きを稽古。ここを中心に(ここだけ稽古)。この体捌きが出来なければ神道夢想流の古伝は先に進めない。…古伝入門の登竜門である。

6月13日(土)会食…「ホテル 花月」にて。

西の横綱「西の関」、東の横綱「越乃寒梅」、茨城、信州の地酒、…たっぷりのお酒に囲まれ杖の話に花が咲いた。



6月14日(日)AM

全日本剣道連盟 杖道の形 12本目の乱合 を稽古

6月14日(日)PM

神道夢想流 杖 古伝の乱合 を稽古

神道夢想流 杖 の伝書には、乱合は記載されていない。

乱合は江戸の末期、「佐多亭介先生と梅崎忠吉先生の工夫である」旨の書付が残っている。中段の技と、影の技を組み合わせからなっており、本来は、古伝を全て稽古した者の稽古形である。これらの事を念頭において、

全日本剣道連盟 杖道 の乱合 と古伝との違い、理合を検証しながら稽古して稽古会終了。



松本杖道会
太田 安昭 (記)

以下、参加者の感想を記します。

毎年、この時期に松本と諏訪 交代で合同稽古会を行っています。師匠以外の先生に指導され毎回思うのが、自分を意識する事の難しさです。いつも、師匠から教わっている事を稽古会で体現して、又、自分の中ですり合わせて行く訳ですが、自分の出来ない部分について、松村先生に直接ご指導を受けたり、他の先生方からご指摘を受けると認識が出来ます。しかし、自分が(我が)出てくるとその事を認識をする事が難しいです。何も指摘されないから出来ている?・・・そうではないですね。やはり、普段の稽古で自分にどれだけの問題意識を持ち、どれだけ自分自身が確認できているなんですよ。それを確認、意識させてもらえる合同稽古会、今年は1日しか参加できませんでした。今後とも、宜しくお願い致します。

松本杖道会 加藤 典朗

今回の稽古課題は表3本、杖の捌き、気合を入れるタイミング、更には自分で分かっている様で分かっていないのが自分の体。加藤先生から同じ事を何回も言われ、我ながら難しい武術に足を入れたものだ。と気弱になっています。それにもまして、加藤先生の話術にうまく乗せられ、自分ながら表が出来る様になったかと錯覚した時間でした。今度は、3本の太刀。太刀を扱う手の内の難しさ。思い切って杖に向かってゆく気持ちの持ち方。なかなか、思うように行かない。篠原先生も口をすっぱくするくらい、同じ事を言ってご指導頂きました。表の太刀は本日、始めて教わりました。焦らず教わっていけば、何とか成るではないか。慌てず教わった事を繰り返しやっていけば、その内身につくと思ひ、永い時間との勝負と思っています。

松本杖道会 小栗 勝人

今回の稽古は表、太刀落・鑿割・着杖の3本でした。稽古は常に先蹤に倣う事、・・・古来からの型を作り変えたり、自分勝手に工夫したりする事はしてならない・・・は普段の稽古の中できつく教えています。今回の稽古会でも太刀を持っていた先生方から、この事を強く言われた様に思います。少しばかり稽古してきましたが、自分の未熟さゆえ、体現できない事とその言い訳・そしてごまかし・・・この事を嫌と言うほど気づかせていただきました。同じ事を複数の人に言われると見に染みます。この日を持って、再出発点となりました。この3本、太刀を初めて教えていただきました。後半、心身ともに着かれきって意識もうろう・・・しかし、老体に鞭打ってがんばりました。不思議なことに終盤に近づくにつれて疲れが消え、意識が冴え、体が整ってきました。もう少し、稽古したい。と言うところで時間となりました。大変ありがたい稽古会でありました。

松本杖道会 上条 貢

6月6日、7日に松本で、合同稽古会が行われ、講師の松村先生はじめ各地区の先生や、先輩仲間の皆様と稽古ができたことを大変有り難く思います。今回の稽古会で自分自身感じたことは、稽古で太刀に斬られることを恐れていたのではないかとということです。太刀に斬られて悪いところや間違っているところが解り、斬られない工夫をする。斬られることを恐れない意識を持つことで、斬るなら斬ってみようという気持ちを持つことが、真剣勝負の気力や気迫が出てくるのではないかと。これからは斬られて掴むことを大事にしていきたいと思ひます。

諏訪杖道会 五味 恭一

6月6日、7日両日に、長野県松本市のMウイングで合同稽古会が行われました。松本杖道会、諏訪杖道会をはじめ、紘武館道場、茨城、那須、静岡、新潟、山梨、秋田の各地から20数名の稽古人が集まりました。松村先生、太田先生、篠原先生の指導のもと、基本、表3本、制定の乱合、古流の乱合を稽古しました。日頃、師に注意されている点をまた指摘されます。普段の稽古をおろそかにしている「つもり」はないのですが、頭で理解していてもなかなか体現できず、自分ではやっている「つもり」なのでしょう。自分の世界に入らず、「つもり」にならず、斬られた時、突かれたことの意味を考えながら、師の言葉を体現できる様に稽古を積み重ねていきたいと思ひます。また、懇親会では東の横綱、西の横綱など、美味しいお酒をたくさんいただきまして感謝しています。松村先生、各先生方、松本杖道会の皆さん、本当に有難うございました。

諏訪杖道会 杉浦 良介

松村館長を中心に、先生方、稽古仲間との充実した稽古会が6/7. 8と松本市で開催されました。初日館長から「杖は、楽に振れ」と教えていただきました。力を抜くということに心を配っていた私には、それはあたかも天の声のように聞こえました。体中に漲っていた力がスーと抜けて杖先に気が集中していくような気がしました。力を抜くのではなく楽に振る。これはとても楽しいことに成りそうで、早くたくさん振らなくてはと思いました。やがて真剣勝負ができる太刀使い、杖使いができたかと夢が大きく前進しました。一年に一度はきつと顔を合わせる大家族のような錯覚を覚えながら、参加者全員で記念写真に納まりました。先生方にご指導いただけたこと、仲間と稽古できたこと、会に参加できたこと、そして、おいしいお酒を戴いたこの稽古会に感謝です。有難うございました。

諏訪杖道会 岩波 好子

6月7日一日でしたが、稽古会に参加させていただきましたので、感想を記します。一つは松村館長から直接突きの指導を受けました。突かれた瞬間本当に突かれたという感覚をうけました。杖の突きはこのように突くのだと今後の修行の糧にいたします。また、太刀についても本当に斬っていけといつも言われているのですが(太刀を置きに行くような斬りになってしまうので)なかなか躊躇して思い切りができずにいましたが、数々の場面を見せていただき、杖と太刀はいつも実戦であるということ、身をもって知らされました。数々のご指導をいただき、本当に有難うございました。

諏訪杖道会 桑原 郁人

今回、松本市にあるMウイングにて6月6日、7日に合同稽古会が行われ、他地域からの杖道メンバーとも杖、太刀を合わす良い機会となりました。最初に松村館長から、構えたときの足の位置について話がありました。「正確な位置に足がないと正確な打突につながらない」という話で、以前、篠原先生からもその話があったことを思い出しています。それから、後ろ重心にならない事、力を抜くこと、後ろ足、基本の姿勢、目につける、..など、毎回の稽古の中で何度も指摘してもらっている話がでてきて、「しまった」の連続でした。とにかく今回指摘されたものだけは、同じことを指摘されないように頑張ろうと思います。特に繰り付けた後の後ろ足...その他にも正直、自分でも上手くできていないと思っている基本があり、「引落打」や「繰付」を気にしていました。今回の稽古会で、松村館長が「繰付」「繰放」の見本を見せて頂きましたが、一言でいうと「目の覚めるような」思いがしました。篠原先生の言われた「稽古の中に身を置く」ことが、どれほど重要なことか分かった気持ちです。その他にも自分の癖に気付かされるのも、こうした稽古会の良いところです。自分の動きは早すぎて、相手の動きを理解していない。つまり相手の動きが読めていない稽古をしていることに気付かされました。最後に古流の3本を教えていただくことができ、本当に感激です。それと同時に「最初が肝心」という稽古会での言葉通りに、この3本をしっかりと身体に染み込ませるようにしていきたいと思えます。いろいろ有難うございました。

諏訪杖道会 小林 英志